

令和元年度 5月定例記者会見 会見録

日時 令和元年5月22日(水)午後2時00分～2時45分

場所 市役所2階第1特別会議室

(市長)

はじめに、今月28日から市議会6月定例会議がスタートいたします。ここで、私の4年間の市政運営に関する所信を述べさせていただく予定です。市民に開かれた市政、持続可能なまちづくり、市民が誇れるまちづくりを、3つの大項目として掲げ、行政サービスの充実、子育て支援・教育支援、高齢者支援、産業と観光の振興、災害対策、環境対策、まちづくり施策、多様性が尊重される社会の実現など、4年間の取組の方向性をそこでお話させていただきたいと思っております。今回の定例会議では、相模原市の次期総合計画の基本構想や城山公民館の位置の変更、6月補正予算案について提案をさせていただく予定です。

次に、津久井やまゆり園事件の追悼式についてです。19名もの尊い命が奪われ、日本中に衝撃と深い悲しみをもたらした事件から3年が経とうとしております。私は、この事件の記憶をいつまでも風化させてはいけないという思いであり、先月26日の月命日には、現地を訪れ、献花をさせていただきました。改めて、事件で犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、心身に傷を負われた皆さまにお見舞いを申し上げます。神奈川県では、事件が発生した7月26日を含む週を「ともに生きる社会かながわ推進週間」と定めており、その初日である7月22日(月)に、相模女子大学グリーンホールにおきまして、神奈川県と本市、かながわ共同会の共催による追悼式を行う予定です。追悼式では、ご遺族や多くの関係者の皆さまとともに、事件で亡くなられた方々を追悼し、こうした事件が二度と繰り返されないよう、強いメッセージを発信していきたいと思っております。「共にささえあい 生きる社会」の実現に向けて、決意を新たにすところです。現在、県においては、津久井やまゆり園の園舎の建替など、新たな第一歩が取り組まれていると伺っております。本市におきましても、県やかながわ共同会と連携しながら利用者一人ひとりと向き合い、支援に関する意向の確認を丁寧に進めるとともに、「共にささえあい生きる社会」をイメージしたラッピングバスの運行や啓発動画の作成など、障害への理解促進に向け、取組を強化していきたいと考えております。今後も、すべての人が安全で安心して暮らせる共生社会の実現に向け、本市としても全力で取り組んでまいります。

最後になりますが、5月20日付で森 多可示 副市長が就任いたしました。今後、記者の皆さまには、様々な場面でお世話になると思っておりますので、よろしく願いいたします。

私からは以上でございます。

(記者)

市長に就任されて1か月間、精力的に動かれていましたが、相模原市に関して感じたことをお聞かせください。

(市長)

職員、教職員含めて約7,800名おりますが、各々が熱心に行政サービスに取り組んでいることに、信頼を置いております。そして、市民の皆さまから新たな体制に対し、大きな期待をいただいていると強く感じております。開かれた相模原市を実現するため、まず、市長室につながる秘書課前のガラスのスモークフィルムを剥がし、透明なガラスにしました。私が就任した4月22日から市長室の扉や秘書課前の扉を開けており、多くの市民の皆さんにもお越しいただき、大きな期待感を感じております。次の世代に相模原を確かな形で引き継ぐことが、私たちの責任であり、駅伝に例えると、次の時代にタスキをしっかりと繋げるように頑張る覚悟をさらに強めました。

(記者)

副市長人事にも動きが出ておりますが、梅沢副市長の後任人事は決まりましたでしょうか。

(市長)

本年5月末日をもって任期満了となります梅沢副市長の後任といたしまして、前総務局長で現在再任用職員として、視覚障害者情報センター所長を務めております隠田 展一 氏を副市長に選任いたしたく、6月定例会議に議案を提出させていただきたいと考えております。

(記者)

隠田氏を選任した理由をお聞かせください。

(市長)

梅沢副市長には任期の4年間、一所懸命、加山市政を支え、そして4月からは私も支えていただきました。後任の人事としましては、梅沢副市長が担ってきた仕事をしっかりと受け継ぎ、行政サービスに空白ができないよう職務を遂行できる方ということで、総務局長をはじめ、豊富な行政経験を積まれた、隠田氏を選任したいと考えております。

(記者)

先日、選任された森副市長も市役所の総務部門での経験が豊富であり、隠田氏も同様に総務部門の経験が豊富だと思いますが、事務分担はどのようになるのでしょうか。

(市長)

事務分担については、これまで梅沢副市長が担ってきた業務に関しては、隠田氏に引き継いでいただき、湯山前副市長が担ってきた業務に関しては、森副市長に引き継いでいただきたいと思っております。

(記者)

先週の土曜日に、市長室につながる秘書課前のガラスのスモークフィルムが剥がされ、開かれた市長室実現への第一歩を踏み出したと思うのですが、実際にその光景をご覧になった時の感想を教えてください。

(市長)

連日、多くの市民の皆さんにお越しいただき、スモークが貼られていた時と比べ、非常に解放感があるというお話をいただいております。市長室や秘書課前の扉は、私が就任した日から開放していたのですが、スモークフィルムを剥がしたことで、扉の外からも市長室や副市長室、秘書課がご覧いただけるようになり、より市民の皆さまと近づけたと思っております。

(記者)

新たに選任した副市長につきましては、両人とも元市職員であり、内部昇格をしたようにも見えますが、どのようなところを期待して選任されたのか、二人の役割分担も含め、詳しく説明をお願いしますか。

(市長)

副市長の人事につきましては、先日の市議会においても、野元議員から民間の方の登用や女性の登用についてご質問をいただき、そのような視点からも考えてまいりましたが、人選にあまり時間が掛けられない状況の中、前市長のもとで行われてきた施策を継続するものと、変更するものを精

査していく必要があることから、行政経験が豊富なお二人を選任いたしました。森副市長につきましては、記者からは総務部門の経験が豊富というお話がありましたが、環境経済局や都市建設局の事業にも長く携わっております。特に都市建設局の事業に関しましては、麻溝台・新磯野地区の土地区画整理事業や相模総合補給廠一部返還地の整備、淵野辺駅周辺の公共施設の鹿沼公園への移設など様々な課題や、小田急多摩線の延伸、リニア中央新幹線の建設に向けた、橋本駅や相模原駅周辺のまちづくりへの取組など、立ち止まるところは立ち止まり、進めるところは進めていきたいと考えている中で、都市建設局の事業に関与されてきた森副市長には、これまでの経験を生かしていただきたいと思います。また、梅沢副市長の後任である隠田氏につきましては、これまでも総務局長を長く務められてこられた経験や、庁内だけでなく多くの方からバランス感覚が良いとのお話を伺っておいりましたので、梅沢副市長が担ってきた業務を担える人材と確信いたしました。

(記者)

開かれた市政を目指すということで、最初に掲げられたことは市民との対話だと思います。これまでも、市では、まちづくり懇談会や、市政を語る会など、市民との対話の機会があったと思いますが、今後はどのように対話事業を行っていくのでしょうか。

(市長)

まちづくり懇談会に関しては、これまで副市長が市のトップとして出席してきましたのですが、今年は、私も出来る限り全会場に出向いて参加したいと思っております。そのほか、現在、渉外部と詰めておりますが、広報さがみはらなどで開催を周知し、7月あたりから各区を回りながら、膝を突き合わせた車座集会のような、対話集会を開催できればと思っております。また、記者の皆さんとも、定例記者会見を月に複数回開催する方向で相談をさせていただきましたが、現在のところ記者会見は月1度の開催を継続し、そのほかに記者の皆さんと記者室でお話できるような環境を月に1度くらい出来る方向で調整中です。記者の皆さんともより多くの議論を交わし、色々なお知恵をいただきたいと思っております。

(記者)

まちづくり懇談会は年に2回行われると聞いていますが、基本的には全部出席されるというこ

とでしょうか。

(市長)

私の手帳にはすべての開催日程を記録してありますので、ほかに優先すべき公務が無い限り、すべて出席する予定であります。

(記者)

先ほどお話のありました7月から市民との対話集会は、まちづくり懇談会とは別に行うということではよろしいでしょうか。

(市長)

別に開催したいと思っています。例えば7月に緑区で開催するならば、事前に緑区版の広報紙で市長との車座集会の参加者募集を掲載し、集まっていたける市民の皆さんと対話をしていく形で実施したいと考え、担当に調整を進めてもらっています。

(記者)

事前に参加者を募集し、7月中に1回か2回開催するようなイメージでしょうか。

(市長)

月1回は開催したいと思っています。

(記者)

副市長人事の話がありましたが、教育長人事についてはどのようにお考えでしょうか。

(市長)

教育長の人事についてですが、野村教育長は任期も残っており、何より私は非常に高く評価をしております。野村教育長には、子どもの学力調査や体力測定、夜間中学の検討も含め、チャレンジする教育行政を教育長の手で実現するよう託しておりますので、引き続き、野村教育長にお願いしたいと思っております。

(記者)

企画財政局の理事に石井氏を任命されましたが、理事という職を設けた理由と石井氏を選んだ理

由を教えてください。

(市長)

都市間競争が激しくなる中、選ばれるまちでなければいけないという思いがあります。読売広告社により昨年実施されたシビックプライドのアンケート調査において、相模原市の順位が151市中146番という結果を見て、市民の誇り、共感、郷土愛、これらが市民の皆さんに醸成できるような、まちづくりを進めていきたいと思っております。私も衆議院議員の秘書、県会議員、衆議院議員として、またサラリーマンの経験もありますが、行政経験はこれまでありませんでした。選挙後、ある方のご紹介でお会いした石井氏とお話をする中で、市役所の中の調整役を、この方ならお願いできるという思いから、当時、橋本図書館長というお立場であった石井氏に、ぜひ私を支えていただき、政策ブレインの1人になっていただけませんかとお願ひしまして、大分お悩みになられたようですが、結果的にお受けいただくことになりました。現在、相模原市にはシティセールスサポーターが17名いらっしゃいますが、出来ることならば、7,800名すべての職員がシティセールスサポーターであって欲しい、さらにお願ひできれば72万市民の皆さんが、全てシティセールスサポーターになっていただければ非常にいいなと思っております。チーム相模原として、市長の顔は変わりましたが、これからも加山市政の継続すべきところはしっかりと継続していくと同時に、新しいものにもチャレンジしてまいります。多くの市民の皆さんが、相模原市を好きになってもらい、誇りを持てるまちになるためには、まず庁内の職員の皆さんにも自分たちの相模原市に誇りを持ち、自分たちの職に誇りを持ち、そして縦割り行政と呼ばれるような弊害が生まれないように、しっかり横串縦串がさせるような庁内の透明化、さらに風通しの良い相模原市にしていきたいと思ひ、石井さんに理事をお願ひいたしました。

(記者)

伊勢丹相模原店の閉店が9月末に迫っておりますが、市としてどのように取り組んでいくのか教えてください。

(市長)

課題が非常に多い案件ですね。伊勢丹のある場所は民地であり、なかなか市の主導で解決しづら

い部分もあります。私は、市長に就任する前から伊勢丹相模原店の問題に関しては、選挙戦において市民の関心が高いもののトップ5に入るものと思っておりました。まずは伊勢丹の役員の方とお会いしてみたいと思っており、準備を進めております。

(記者)

伊勢丹の役員とお会いするにあたり、何か今後のビジョンは描かれているのでしょうか。

(市長)

できることなら相模原に残っていただきたいという思いがあります。ご存知のとおり、あの周辺には、相模女子大学グリーンホールや相模大野図書館、中央公園があり、導線の確保も重要であります。これまでも市議会のご質問に対し、加山市長も導線の確保について答弁もされており、地元商店街や自治会をはじめとする皆さんからも、跡地での商業施設の継続を望む声が非常に多くありますので、地域の要望も含めて、お話をさせていただきたいと思っております。

(記者)

市長自身はどのようにするべきだとお考えですか。

(市長)

私は、もちろん伊勢丹相模原店がそのまま残っていただくことが一番良いと思いますが、民間の話でありますので、なかなかそこは難しい部分があるのかもしれませんが、ただ、これまで市長が伊勢丹の関係者と直接お会いしていないという話を聞いたので、まず第1歩として、私が扉を開いてまいりたいと思っております。先ほどお話しした導線の確保や商業施設の形成、特にポーノ相模大野、伊勢丹、相模大野ステーションスクエアの三つの商業施設を核としてまちづくりを進めてきた経緯もあり、その1つが無くなることは大きな損失であり、相模原市の唯一の百貨店が無くなるという、厳しい環境になります。相模大野で買い物をしたい、伊勢丹があったから相模原市に引っ越してきたという声も聞いたこともありますので、そういった市民の皆さんの声を伊勢丹にしっかり伝えていきたいと思っております。

(記者)

相模総合補給廠の一部返還地については、何か進展はありましたか。

(市長)

市長に就任してからの1か月で、現状を都市建設局にしっかり確認してまいりました。はじめに、小田急多摩線の延伸に関する取組は、加山市政から続いている大きな事業の1つでありますので、変わらずに、もっと言うとそれ以上に、延伸に関する市民の皆さんの熟度を増していかなければなりません。そのためには、延伸に関する現実の話 皆さんにお伝えしなければいけません。市が持っている現実的な話を町田市とも共有し、近々、皆さんにも発表したいと考えております。さらに相模総合補給廠一部返還地の15haに関しましては、色々な方からご提案やご提言をいただいておりますので、それを踏まえ、今後さらに地域の自治会や商工団体、例えば商工会議所の組織である相模原商工会議所青年部の皆さんからも提言をしたいと近々いらっしゃるようですので、様々な方のお話を聞き、対話を重ね方向性を決めていきたいと思っております。

(記者)

小田急多摩線延伸の話で、近々発表するというのは何の話でしょうか。

(市長)

現在、町田市とも連携し、どのような形でお話していくかを詰めているのですが、交通政策審議会の答申以降、市民の皆さんが小田急多摩線はリニアの開業とともに延伸すると思われる方が多くいらっしゃるようになっております。もちろん、相模原市、町田市ともに小田急多摩線の延伸は推進する立場ですが、現在、相模原市と町田市などで調べた現状や課題などを、両市でまとめて、市民の皆さんにも課題等を理解いただき、一度立ち止まって、課題を乗り越えて一緒に延伸を実現しましょう、皆さんと熟度を高めて行きましょうという話を近々したいと思っております。

(記者)

現状と課題をまとめて伝えるという話は、シンポジウムを開くのか、マスコミを通しての情報提供なのか、どのようなものでしょうか。

(市長)

まずは議長、副議長をはじめ市議会の皆さまにご説明し、速やかにマスコミの皆さまにも発表するということになるかと思いますが、現在調整中ですので、改めて丁寧にご説明してまいりたいと思います。

(記者)

夏に衆議院議員選挙が行われたならば、ご自身の後継候補を出されるのですか。出されないのであれば、どういう方が望ましいと思っているのでしょうか。

(市長)

相模原市長としては、完全にニュートラルな立場でいます。この人を応援するとかしないとか、私が言える立場じゃないということは認識しております。

(記者)

小田急多摩線の延伸について、選挙期間中は延伸については難しいというお考えを示されていたようですが、延伸を推進していく考えに転じたと理解してよいのでしょうか。

(市長)

私は元々、県会議員時代、国会議員時代から小田急多摩線の延伸推進派でありまして、確か小田急多摩線延伸推進派の立場で国土交通委員会をはじめ、国会の場で3度くらい質問しております。私のほかに小田急多摩線の延伸のことを取り上げた方はいないと思います。小田急多摩線の延伸をストップするという話ではなく、加山市長が話されていた愛川町や厚木市を含め延伸してもらいたいという話です。ただ、市民の皆さんが小田急多摩線は確実に延伸されるものだと思っているように思われるので、その点では一歩立ち止まって考えていただきたいと考えております。市長になり、所管の部署の職員から話を聞く中で、延伸に関して課題が多くあると感じています。平成28年の交通政策審議会の答申で意義のある路線として位置付けられたことで、これまでより取組は前進しておりますが、市民の熟度が増していないこと、多摩都市モノレールの延伸計画のある町田市や東京オリンピック以降も6本の鉄道網を検討している東京都などに小田急多摩線の延伸に積極的に協力いただくことも課題だと思っています。また、採算性の課題についても国交省から指摘されているところであります。今後どのような課題を解決していけば小田急多摩線の延伸が前進していくのか研究をしていくためにも、町田市と一緒に、市民の皆さんに現状や課題についてお伝えできればと思っております。

(記者)

下仲副市長は続投されると受け止めてよろしいでしょうか。

(市長)

下仲副市長につきましては、平成33年の任期まで、引き続きお願いしたいと思っております。

(記者)

津久井やまゆり園での事件から、あと二か月で三年という節目を迎えます。相模原市として事件を風化させないために、加山市長時代とは違う新たな取組を行うなど、目に見える変化はあるのでしょうか。

(市長)

加山市長時代から、この件については真剣に取り組んでいただいたと思っております。神奈川県やかながわ共同会と連携し、私の政策集でも掲げている、共生社会の実現や障害者雇用、地域における必要な支援、重度の障害がある方に対する理解の啓発などに、取り組んでまいります。津久井やまゆり園は、地域の方と非常に密接な関係だったと聞いておりますので、今後も地域の皆さんの声や、利用者の皆さんやご家族の声を、より丁寧に関き、被害に遭われた皆さんに寄り添ってまいりたいと思います。

(記者)

日常生活の中で障害の有る無しに関わらず暮らしていけるような社会というのを目指していく中で、何かアピールできるような施策を展開することや、インクルーシブ教育の充実という部分で継続発展していく部分はあるのでしょうか。

(市長)

本市においても国と同様に障害者雇用の水増し問題があり、今後、三年間で積極的に障害者雇用を進める計画がありますが、もう少し速度を上げて雇用の実現が出来ないかと考えています。本市にありますオギノパンさんでは、非常に熱心に障害者雇用に促進されていると伺っておりますので、一度現場を拝見させていただきたいと考えています。中小企業をはじめとする多くの企業にも訪問

させていただき、障害者雇用への理解を進めていきたいと思います。選挙戦でも障害者雇用日本一というのを私は訴えてきましたが、その実現に向けて、民間企業にお願いするだけでなく、まず私たちが積極的に取り組む必要があります。総務局とも相談しながら、障害者雇用を三年と言わずに、前倒して進めていくことができないか、具体策を講じていきたいと思っています。また、インクルーシブ教育については、教育委員会とは具体的に話をしていないのですが、私の所信表明でもインクルーシブ教育を取り上げておりますので、教育委員会ともしっかり議論して、具体的な話が出るようにしていきたいと思います。

(記者)

やまゆり園の追悼式ついてですが、被害者は全員匿名で追悼されましたが、今年も匿名での紹介となるのでしょうか、方針は決まっていますか。

(市長)

私も承知しておりません。私は、7月22日の追悼式典への参列と命日にあたる7月26日には津久井やまゆり園を訪問し追悼させていただきたいと考えております。

(記者)

神奈川県では、再建した津久井やまゆり園の園舎に追悼のモニュメントを作ろうという方針を立てていますが、モニュメントに亡くなられた方の名前を刻むが決まっていないということです。最終的な決定は県が行うことではありますが、モニュメントに実名を刻むことについて、市長はどのようなお考えをお持ちですか。

(市長)

ご質問いただいた内容につきましては、現時点では具体的な考えはありませんが、風化させてはいけない事案であり、ご遺族の皆さんが悲しみを乗り越えていくためにはどのような環境づくりができるのか、今後、神奈川県、かながわ共同会とも調整を行いながら、検討していきたいと思っています。

以 上